

## 平成31年3月 岩手県教育委員会臨時会 会議録

### 1 開催日時

開会 平成31年3月26日(火) 午後1時30分

閉会 平成31年3月26日(火) 午後2時35分

### 2 開催場所

県庁10階 教育委員室

### 3 出席した教育長及び委員

高橋 嘉行 教育長

八重樫 勝 委員

小平 忠孝 委員

畠山 将樹 委員

新妻 二男 委員

### 4 説明等のため出席した職員

今野教育次長兼教育企画室長

鈴木特命参事兼企画課長、山本予算財務課長、永井教職員課総括課長、佐藤学校調整課総括課長、鈴木産業・復興教育課長、橋場生徒指導課長、藤澤高校改革課長、小久保学校教育課総括課長、佐野義務教育課長、佐藤特別支援教育課長、荒木田保健体育課総括課長、佐藤生涯学習文化財課総括課長、鎌田文化財課長

教育企画室：長澤主任主査、小野寺主事（記録）

### 5 会議の概要

#### 第1 会期決定の件

本日より決定

#### 〔議案〕

#### 第2 議案第46号 岩手県教育振興計画の策定に関し議決を求めることについて（教育企画室）

別添議案により説明

八重樫委員：今日の新聞報道でも県民計画が満場一致で承認されたということですし、その参考となる指標がこの計画にも載っています。なお、新聞報道によると、今回策定した県民計画が全てではなく、今後見直しをするようにも書かれていました。県民計画は、議会に承認されていますし、我々委員もこれまで意見を言ってきましたので、全体としては良いと思いますが、若干、読めば読むほど活字になって世の中に出たときに、これで良いのかと言われそうな気がするところが何か所かありますので、その点について、あえて言わせていただきます。例えば、議46-47ページの「適切な部活動体制の推進」で「部活動の資質向上」とありますが、「部活動の質的向上」ではないかと思いました。そのほか、先ほどの説明で、ネガティブな表現はしない方が良いのではないかという話がありましたが、「部活動は生徒の義務的活動ではなく」と書かれており、これは正に否定的な言い方だと思いますので、なくても良いのではないかと思いました。それから、議46-40ページの「豊かな心の育成」の現状と課題に「岩手県の児童生徒の読書率が全国と比較して高い傾向にあることから、生涯にわたって読書に親しみ、楽しむ習慣につなげていく」とありますが、日本語のニュアンスとしておかしいのではないかと思いました。

鈴木特命参事兼企画課長：御指摘のありました「豊かな心の育成」の現状と課題については、子どもの段階では読書率が高いので、生涯にわたって読書に親しむようにという思いで作ったものです。それから、部活動の関係では、「部活動は生徒の義務的活動ではなく」という部分が不要ではないかと

ということですが、「義務的活動ではない」ということを改めてきちんと説明した方が、より思いが伝わるのではないかということです。なお、「部活動の資質向上」については、委員御指摘のとおりだと思いましたが、そういったところについて、取扱いを共有させていただきたいと思います。

新妻委員：これまでのいろいろな意見が反映され、修正・改善がなされていることについて評価したいと思えますし、全体として見れば、非常によくまとまっていると思えます。八重樫委員がお話したとおり文言等で気づいたことがありますので、後で事務局の方にお伝えして直せるところは直していただくというようにしたいと思えますが、一点だけお話しさせていただきます。議 46-64 ページの図表の⑤に「悩み相談ができる学校以外の相談窓口を知っている児童生徒の割合」とあります。これは小学校の場合、何年生以上が対象となっているのかわからないのですが、仮に高学年だけだと仮定しても小学校と中学校における現状値の開きが大きすぎるのではないかと思います。これが現状の数値となると、小中とも来年度の目標値が 90%ですので、中学校の現状値から倍増することになります。中学生の落ち込みが大きいので、間違いなのか、調査の間の仕方によるものなのかとも考えられますので、改めて事務局にお伝えしたいと思えます。

教育長：本日、計画自体の採決を後でお願いしたいと考えていますので、文言の修正や表現の仕方について、委員の皆さんからのお許しをいただけるのであれば、個別に御意見をお聞きした上で、私に修正をお任せさせていただきたいと思えますが、いかがでしょうか。

全委員：異議なし。

橋場生徒指導課長：御指摘のありました「悩み相談ができる学校以外の相談窓口を知っている児童生徒の割合」についてですが、小学校については、5年生を対象にしていますし、中学校については、2年生を対象にしています。中学校の現状値が低い点については、試行調査をした段階で、中学生だけ少し聞き方が違ってしまったために、数値が極端に下がってしまったものと思えます。今後は、統一した聞き方をしていきたいと考えています。

畠山委員：これまで出た様々な意見を柔軟に取り入れて策定していただきましたので、内容に異議はありません。これまで、前の計画の進行管理をしてきた中で、度々意見が出ていたものとしては、やはり数値で細かく見ていくことの重要性がある一方で、教育は、特に数値で見きれない成果の部分がたくさんあるのではないかという意見が多く出ていたと思えます。先ほど八重樫委員からもお話があったように、柔軟にこれから運用していかねばならないという中であって、評価に力を入れて、5年の中で変えるべきところを柔軟に変えていくこと、そして、第2章の目標・取組の大きな視点に立ち返って、この計画を果たしていくという強い意識で進めていただきたいと思いますし、計画を立てた後の評価が大事だと思いたしたので、意見させていただきます。

鈴木特命参事兼企画課長：この教育振興計画については、審議会の中で数値目標を独自に作成するかという議論もありましたが、教育は、数値だけでは表せない部分も大きいという審議会委員からの御意見もあり、県民計画の数値を参考として載せています。それを参考数値としては、進捗管理していくわけですが、それだけではなく、もっと大きな視野での進捗管理もしていく必要があるということで、来年度からの教育振興基本対策審議会の方で数値の推移も見ていきますが、大きな取組としてどういった進捗になっているのかということについて、委員の皆様から御意見をいただきながら進捗管理をしていきたいと考えています。

教育長：審議会から出た御意見ややり取りについて、教育委員会の方にも適時適切に報告していただくということでもよろしいでしょうか。

鈴木特命参事兼企画課長：はい。

小平委員：畠山委員が話された評価に関してですが、教育の評価を数値化することについては、違和感を感じています。教育というものは、物の生産と違って、すぐ結果がでるものではありません。人によっては急に成果を出す人もいますが、そうでない人もいますので、長い目で見る必要があります。評価について数値にこだわりすぎるのではなく、そういった点にも気をつけて、今後活用していったほしいと思えます。

教育長：県議会の教育長演説で、私の方から、教育の推進に当たって、教育の不易と流行ということをしっかり踏まえて対応していきたい。正に教育は、百年の大計とも言われるように、時間をかけながらじっくりと人間形成をしていくということが極めて大事だということを申し上げましたけれど

も、ただ今いただいた御意見を十分踏まえながら公教育を推進していきたいと思っておりますので、委員の皆さんの御理解、御協力をお願いします。また、事務局としても、そういう観点を持って、各学校をしっかりと支えていきたいと考えております。

八重樫委員：前の教育振興計画もあるわけですが、それと比較して、今回策定する教育振興計画の特徴として、「岩手だからこそできる教育、やるべき教育の推進」が取組の視点として挙げられており、「岩手ならではの」ということがキーワードのように出てきています。これは、震災があったということや偉人のこともあるでしょうし、「結」と言いますか、世の中全体が人のことはどうでもいいという時代にあって、岩手の場合は、助け合う、協力し合うということや支え合うということなど、正に「幸福」に繋がるようなキーワードだと思います。それを、我々行政に携わる者、特に県庁の課長さん方には、いろいろなところで「岩手ならではの、岩手だからこそできることは何か。」ということをお聞かせされたときに、明確に自信を持って言えるように普段からしていただきたいと思っております。そして、学校にもそのような人間づくりのために取り組んでほしいと考えています。

教育長：特に、その点については、教育長の思いはどこにあるのかということで、議会での質疑もありましたので、そのあたりをしっかりとまとめて情報共有を行い、対外的にもしっかりと説明できるようにしたいと思います。

原案どおり決定

### 第3 議案第47号 いわて特別支援教育推進プランの策定に関し議決を求めることについて(学校教育課別添議案により説明)

畠山委員：議47-13 ページに「特別支援学校が設置されていない圏域、長期入院児童生徒への学びの場、各校種の実情に応じた教育諸条件等に対する計画的な整備が必要です。」という課題が挙げられており、これに対して、議47-26 ページの「特別支援学校における教育諸条件の充実」に繋がっているものと捉えました。これを見ると、2019年と2020年で「特別支援学校整備計画」を策定し、その後、推進していくということはわかるのですが、計画の中に計画を立てるという計画があって、それを推進するという中で、ほかのところは目指す姿等がもう少しわかりやすいのですが、議47-25 ページからの部分がわかりづらいような印象を受けましたので、そのあたりを御説明いただけないでしょうか。

佐藤特別支援教育課長：「特別支援学校整備計画」の策定に関わる具体的な内容について、主な項目は、まだ出されていませんが、各特別支援学校の環境整備に関わっては、各市町村からの要望や児童生徒の増加によって教室不足に陥っている地域等を中心にしながら環境整備を行っていきたくと考えています。そのほか、様々な通学支援の課題等も出されていることから、それらの課題解決に向けて2年間をかけた策定していきたいと考えています。

畠山委員：いろいろな地域からいろいろな要望が上がってきたり、地域的な問題等、様々な課題もありますが、その分、期待もすごく大きいと思っておりますので、充実した計画策定に繋がっていただきたいと思います。

新妻委員：教育振興計画にも関わってくると思うのですが、今、働き方改革が言われていますので、このような内容豊かな計画を具体的に進めていくとなると、そこで働いている先生方や支援員さん、コーディネーターさんなど、いろいろな職種の方が関わってくると思いますが、そこに負担のしわ寄せがいかないよう、働き方改革を実現するという点についても配慮しつつ、うまくバランスをとっていかねばならないかと思われました。県の計画ですので、定数改善しますと簡単に書けるわけではもちろんありませんが、最終的には、先生方や誰かの負担で乗り切ることがないよう、できれば皆で、できれば条件の改善が将来図られるようにということも念頭に置いて進めていってほしいと思っております。

佐藤特別支援教育課長：働き方改革の観点から、このプランの中では、特別支援教育の一人ひとりの専門性を高めていくことを目指しています。一人ひとりの専門性を向上させながら、学校全体のチー

ムとして支援が必要な子ども達への指導や支援を充実させていく、個人には頼らずチームで対応していくということが、働き方改革の1つに繋がっていくものと考えています。

八重樫委員：「支える」のところで、県民の理解が7割に満たないという現状があるようです。特別支援に関わる者から見て、課題解決に向けた具体的な事例や感じていることはありますでしょうか。

佐藤特別支援教育課長：県民向けの公開講座を開催したときに、参加する方は、教育関係者が多いなどという印象を受けました。やはり、関心が低い人達にもっと関心を向けてもらうことが大切だと思いましたので、今後、関心を持ってもらうためにどのようなことができるか、例えば、もっとPRの仕方を考えるなど、そういったところを充実させていきたいと思っています。

原案どおり決定

#### 第4 議案第48号 第4次岩手県子どもの読書活動推進計画の策定に関し議決を求めることについて（生涯学習文化財課）

別添議案により説明

畠山委員：以前、県北青少年の家に訪問させていただいたときに、国立青少年教育振興機構が推進する「読書・手伝い・外遊び」という標語を聞きましたが、とても良い言葉だと思っており、この読書は、非常に重要だということを感じているところです。教育委員や保護者の立場で学校を訪問した際に図書館を拝見させていただくのですが、昔に比べて楽しい雰囲気、本を見たくなるような紹介をしていたり、すごく良い雰囲気だと思っていますし、このような計画に基づいてそのような取組が進んでいるのは素晴らしいことだと思っています。その中で、議48-3 ページのところで「家読」の取組があるように、家庭の役割が非常に大事になってくると思いますが、家族一緒に読書する時間を設けることの難しさもあると思います。家庭ごとに悩んでいることもあると思いますが、先ほど御説明いただいた公立図書館の役割で「子どもの読書に関する保護者からの相談について、司書や司書補が対応する」とされており、家庭でどうやって時間をつくっていけばいいのか、あるいは、どうやって子どもに興味を持たせ、親も興味を持ってやっていけばいいのか、保護者が悩んでいなくても漠然とわかっていないようなことが多いのではないかと思います。ぜひ、公立図書館でそういう相談もできるということ、学校を通じて保護者に伝えていっていただきたいと思っています。

佐藤生涯学習文化財課総括課長：最近の学校図書館が良くなってきたということは、読書ボランティアの活躍があるということ、逆の言い方をすると、地域のボランティアを活用している学校が非常に増えてきたということです。特に、小学校においては、全国平均よりも少し高いような状況にあります。本編の中にもありますが、地域における読書ボランティアの人数は、ここ数年増えてきている状況にあります。それから、公共図書館のサービスのレベルも上がってきており、親子で利用しやすいような環境が整えられてきていると感じています。親子読書「家読」のお話も出ましたが、教育振興運動として何らかの形で読書に取り組んでいるところが90%近くあるなど、ここ10年程度維持している状況にあり、環境としては、充実しているのではないかと思いますので、この計画の決定を機に更に取り組んでいきたいと考えています。

八重樫委員：1冊も読まなかった理由で「読みたい本が見あたらない」あるいは、「本は読まなくても不便はない」と答えている率が高いので、そういったところを改善する必要があると思います。それから、畠山委員がお話していた家族が一斉に読書をするということ、これを県教委が本気でやろうとしているのかということについてお聞きしたいと思います。学力の高い秋田県では、お母さんが炊事している台所で勉強している子どもが多いという統計もあるそうです。そういった具体的なことなども提案しながら、様々、面白い本を紹介したり、読書っていいよ、本っていいよということを県民の皆さんにアピールし、この計画を推進してほしいと思います。

佐藤生涯学習文化財課総括課長：冒頭に御説明したとおり、主体的に読書に取り組むということが目指すところになります。そのために、今回は、重点ということで、子どもの発達段階をもう少し細やかに見て、丁寧に取り組んでいこうということ、あるいは、ビブリオバトルや高校生の小学生への

読み聞かせ活動等の行動的な取組も広がってきておりますので、そういう取組を後押ししながら、本気で取り組んでいきたいと考えています。

新妻委員：先ほど「岩手らしさ」という話も出ておりましたが、確か盛岡市の豆腐の消費量と本の講読費が全国トップクラスだったと記憶しています。子どもだけではなく大人も平均的に見れば、本を買って読む習慣がわりとある地域だと言われています。「岩手らしさ」という点では、AIよりも読書だという本もありますが、これを重点的にやるのが「岩手らしさ」の1つではないか、強みを更に強くして、大人も子どももとなるのが一番良いのではないかと思います。教育振興運動の位置づけとしても、学校だけでというわけではなく、学校も家庭も一緒に地域全体で取り組むことがスタイルとしても良いのではないかと思いますし、「岩手らしさ」の一つとして大いに前面に出して取り組んでいい運動ではないかと思います。

佐藤生涯学習文化財課総括課長：AIのお話が出ました。一方、本文の中でも触れていますが、メディアの進展とともに、読書する時間が減ってきているのではないかという議論もあります。パブリックコメントの中に「確かにそういう側面もあるだろうけど、AIにはAIの良さがあるんだから、その良さを踏まえつつ、取り組んでいく必要がある。」といった内容の御指摘もありました。メディアの進展ということもこれから引き続き取り組んでいかなければならないところでありますので、読書とメディア、あるいは、AIというところも大きなテーマとして取り組んでいきたいと考えています。

小平委員：今、社会教育の中で、読書ボランティア等の活動が増えてきていることは、素晴らしいことだと思います。ただ、先ほども申しましたが、読書率の数値目標の評価について、実績値が99.2%であるにもかかわらず「C評価」となってきました。私は、読書率が90%を超えるようであれば、「A評価」だと思っています。評価内容を詳しく知らない人は、「C評価」というところだけを見ますので、このような数値目標はやめた方がいいということを何度もお話してきましたが、今後はこういったことはないと考えてよろしいでしょうか。

佐藤生涯学習文化財課総括課長：我々所管課も同じ思いでこの5年間見てきましたが、御指摘を踏まえて、今般策定したアクションプランの中では、それを指標として設定しないということになりました。

小平委員：私も社会教育の現場を見てきましたが、AIの時代になればなる程、読み書きソロバンの基本的な読む書くということが、より大切になってくるだろうと思っています。この計画については、全面的に賛成です。

八重樫委員：特別支援教育推進プランは、「共に学び、共に育つ教育」の推進という副題がありましたが、子どもの読書活動の方も今後に向けて何かあった方が良いのではないかと思います。例えば、「開くと出会う、読むと深まる」という、すごいキャッチフレーズを考えた新聞社がありました。そういったことも発想としてはあった方が良いのではないかと思います。

佐藤生涯学習文化財課総括課長：御指摘ありがとうございます。これまでも、スローガンのものを設けてまいりましたので、今後、概要版の普及に取り組む中で、検討していきたいと考えています。いずれ、各委員から非常に温かい具体的な御支援の言葉をいただきました。本県の読書活動の推進は、一部の学校だけが頑張っているわけではなくて、学校も行政も地域も全てタックを組んで頑張ってきて、これまで実績をあげてきたと思っています。それが冒頭にお話のあった「岩手らしさ」「岩手だからこそ」というところにも繋がっていくと思いますので、読書活動の推進の面におきましても、「岩手らしさ」を更に広げるべく、取り組んでいきたいと思っています。

原案どおり決定

会議結果の公表は、教育長に一任することとして議決された。